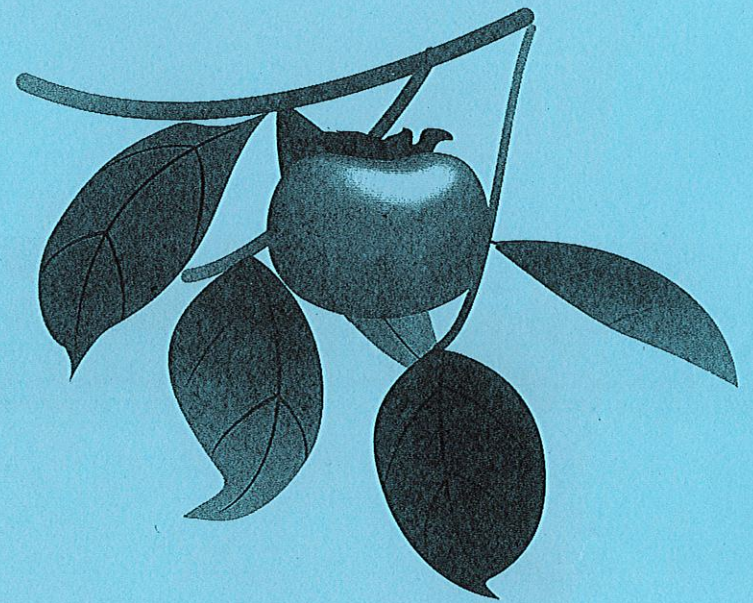


HSK こころから

65号

2018.10



暗やみを
突いてゆれば
不安と孤独
声なき心
闇をつらぬく

昭和48年1月13日第3種郵便物承認

HSK通巻番号559号

発行 2018年10月10日(毎月10日発行)

編集 住所: 札幌市西区八軒8条東5丁目4-18

団体名: 特定非営利活動法人(NPO)

精神障害者を支援する会

TEL: (011) 736-1697

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

定価 50円(会費を含む)

秋の福祉バザー 『ダリア祭』

お天気に恵まれ、新企画！『屋外食事処』も大
好評でした。たくさんの地域の方から、バザー品
を寄付して頂きました。ご協力ありがとうございました。

大好評！屋外食事処



開会のテープカット



今回も地域から、沢山のバザー品
を寄付して頂きました！



『焼きそば』どうぞ！



『流しライブ！』



模擬店！
『昔風ラーメン』が大人気！



最終回 明日へつなぐ希望求めて — 支援する会物語 (第9回) —

細川久美子



(前号からのつづき)

〈「私の居場所は若根荘」と

言い続ける久美子さん〉

今年で若根荘に23年間住み続けている久美子さんも、北海道新聞に掲載された若根荘の記事を見てやってきたひとりです。離婚をして旭川の実家に戻っても心の隙間が埋まらないために酒にのめりこんでしまい、入退院を余儀なくされていました。そのようななかで、主治医も「グループホームで暮らすのなら退院できるだろう」ということで、お母さんがひとりで行って来ました。お母さんは「入居させたい」と早速手続きをとられ、後日、荷物と一緒に久美子さんがやってきたのは秋の夕暮時でした。

まずは荷物を部屋に入れ、寝るところだけを確保し、その日は休んでもらうことにして、道生連の人たちに手伝ってもらい、何とか寝る場所を確保するほどの荷物の山だったことも、今では語り草となっています。口数の少ない久美子さんは躁うつ病ということでした。2月に入ると起き上がれない日々を送り続け、そこから脱却するのに数か月もかかるという状態を繰り返す症状が数年続きました。そのうち早めの受診と治療によってそうした状態から脱却することができました。それでも油断をするとその症状が今でも起こり、うつ症状になります。このような現象は実に不思議なものです。

久美子さんの両親もお兄さんも亡くなり、久美子さんは一人ぼっちになってしまったのですが、若根荘が自分の家だとしっかり位置づいており、今は何年間に1回の富良野にあるお墓に行くのが楽しみで、世話人と一緒に出掛けています。久美子さんにとって若根荘は終の棲家となっているようです。

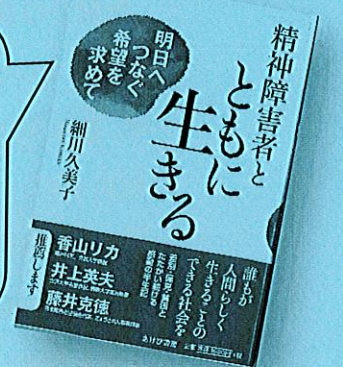
最近、日中週3日、地域活動支援センターに通所していますが、68歳になって少し歩くのがつらくなってきたようです。

当時から入居している人たちは「若根荘で最後まで安心して、平和に暮らしたい」と言います。高齢化してきた仲間たちは、20年も一緒だとその気持ちも本物になってきているのが伝わってきます。そして、その中に新しい人たちも少しずつ溶け込んでいるようです。

7人の住居で2人の支援員を配置し、心に手が届く状態でグループホームの運営がされていることも支援する会の特徴です。日中はダリアの郷支援センター(2001年開設。詳細は後述)に通所して何かあれば対応できる状態にあるからだと思います。しかし、高齢化してきた入居者が増え、動けなくなった時の対応について、どうしていくのが重大な課題です。多くの障害者のグループホームがそうであるように、支援する会のグループホームは、夜間に対応する世話人が配置されていません。精神病と高齢化に対応する問題をかかえています。高齢者問題として見ているだけでは精神障害者の「人間らしく生きる」権利を奪いかねません。国が真剣に考えて制度化していくように、私たちの運動が大事だと思う毎日です。この後は、細川が書いた「精神障害者とともに生きる」の本を読んでいただければと思います。「ここから」での連載を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

『誰もが人間らしく生きる事のできる社会を』
差別・偏見・貧困とたたかい続ける感動の半世紀
(あけび書房より出版)
本体 1600円+税
※支援する会で注文できます。



北海道 胆振東部地震

その時、支援する会は



9月6日未明、北海道の広い範囲をおそった大きな地震。幸い支援する会では、けが人や大きな破損はありませんでした。翌日から数日間続いた停電生活は、とても不安で不自由なものでした。ダリアの郷支援センターでは『一人暮らしのメンバーの為の夕食や朝食の炊き出し』や『懐中電灯の貸し出し』、GHでは、懐中電灯の明かりを頼りに調理や食事を行いました。食材を買う為の長い列に並んだり、地下鉄やバスが運休して病院に行けない、電話が通じず通院先と連絡が取れないなど様々な不安や困難にも遭遇しました。

一たび震災が起こると一変する日常生活。『日ごろからできること、これから取り組む必要のある事』を整理して、今後生かしていきたいと思っています。

グループホーム ひなた

地震から2時間後まだ暗い中、片山さん(スタッフ)が安否確認に来てくれて驚きました。(吉岡)/揺れのすごさのわりに物の倒壊や破損がなくて良かった。(五十嵐)/地震直後、携帯電話がつながったので、家族と連絡を取ることができた。(渡辺)/もっていたラジオで状況を確認することができた。(岩崎)/公共交通機関がマヒしたため、通勤に困った。(黒田スタッフ)/『ひなた』は2階建てなので、2階にも懐中電灯が必要だと思った。今回の地震では水の問題がなくて良かったが、水が止まった時の備えなど今後検討が必要だと感じた。(大橋スタッフ)

グループハウス 結

地震で怪我人や壊れたものはなかったのは幸いでした。停電による生活への影響は想像以上でした。懐中電灯だけでは暗くて、夜は特に心細かった事。炊飯器が使えないので、週末用にパンと乾麺を買い込んだ事。地下鉄とバスが運休し、病院までタクシーを利用するしかなかった事。薬が残り少なくなり、病院に電話がつながるまでどうなるか不安だった事など。

避難訓練は命を守る為のものであり、被災後の生活にこそ大変さがある。普段からできる事を増やしていく支援の大切さを、被災して改めて感じました。(藤原スタッフ)

マザーハウス ぽぷら

地震の日、揺れる階段を降りるのは怖かった。停電もとても怖かったけど、すぐみんなでルームに集まって朝が来るのを待った。みんなで集まると怖さが少しまぎれた。

9:00頃、松永(スタッフ)さんが来てくれ、夜も泊まってくれて安心した。食事支援する会から運んでもらえて助かった。ガスと水道が使えたのも良かった。

ぽぷらに明るい懐中電灯とラジオが欲しい。自分の部屋にも懐中電灯を買いたい。怖くて不便な日だったけど工夫して少しの楽しさと安心をみんなで創りだせた。(鈴木スタッフ)

若根荘

今回の地震で一番困った事は、電気が一日半止まった事でした。懐中電灯を個人で用意していなかった為、理事長から借り対応をしました。夕食も日が暮れないうちにと、時間を早めて摂りました。電気が付かないと食事時も何となく“ヒモジイ”感じがします。ただ、食材の配給も会からあり、支援する会と繋がっていてよかったと皆で再確認をしていました。

普段から防災訓練はしているものの、実際被害に遭ってから分かった事が沢山あり、今後の課題となりました。(松浦スタッフ)

マゼル

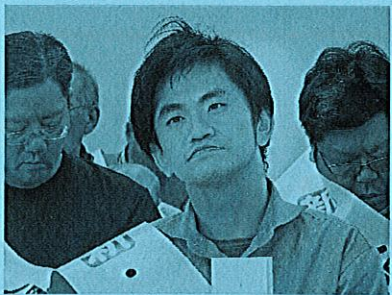
未明の3時7分に発生した地震は、「火災」「水害」等を想定した従来のグループホームの防災訓練、避難訓練では対応が出来なかった。深夜帯、自宅で就寝中に被災している状況では、入居者の安否確認を最優先にする行動をとる事は難しいのが現実だった。

地震後、停電と電話回線が繋がりに難くなり始めた中、「本家2名、サテライト1名」のマゼルの状況を代表していち早く世話人に連絡してきたのは内城さんだった。その報告で入居者全員の無事を知り、再度地震が起きた時の避難口の確保と避難場所の確認と連絡を取り合う事を相互に確認できたのだった。(板谷スタッフ)



『新・人間裁判』

去る9月19日、「新・人間裁判」の第1回目が開かれ、傍聴席は満員となりました。支援する会から、原告として闘っている吉田伸さんが意見陳述を行いました。



私は昭和52年に名寄市で生まれました。家族は寿司屋をやっていた両親と2歳年上の兄と4人家族でした。現在40歳になります。

私が3〜4歳の頃、父が突然蒸発してしまい、母は子どもを連れて母の姉を頼って札幌に転居しました。私は小学校入学前に言葉の発達が遅れていることから、市立札幌病院静寮院に通院するようになりました。またてんかんとも診断され、小学校は普通学級でしたが、中学2年の頃には、将来の事も考えて特殊学

級に編入し、白樺高等養護学校に進学しました。高校卒業後、就職した家具店は一年ほどで倒産し、鉄骨会社に就職しました。兄は出稼ぎに行き結婚し、母は肺がんで亡くなった為、私はアパートで一人暮らしを始めました。障害年金は兄が管理しており、自分が受け取ることが出来ず生活保護の相談に行つたのですが、『若いから本州に働きに行つてはどうか』と、派遣会社を紹介され、名古屋で住み込みで働くことになりました。二年働け

ば社員になれるというので、真面目に働きましたが、一年で派遣切りになり、札幌に戻りました。

兄の所在が分からず、高等養護学校で一緒だった友達の家においてもらいました。友達のお母さんが、探してくれた支援する会のグループホームに入居する事ができました。支援する会では職員と一緒に知的障害者構成相談所へ行き、療育手帳が交付されました。また、停止されていた障害年金や雇用保険の手続きをしながら、仕事を探しました。しかし、仕事は見つからず、平成20年から生活保護を利用しています。

私の願いは一人暮らしが出来るようになる事でした。その思いをグループホーム支援者に分かつてもらい、サテライト型住居で訓練し、現在一人暮らしが出来るようになりました。

私は現在、障害年金6万4900円を受給し、作業所で働いて工賃1

万と、保護費4万5千円、合計12万円で生活しています。今回の3回の引き下げで6千240円減額になりました。

引き下げは私の生活に大きな影響を与えています。以前は楽しみにしていた月1回の映画鑑賞も殆ど行けません。念願の一人暮らしになりましたが、金銭的に余裕がなく、これからの事を考えると精神的にも不安です。

安心して自立に向けて頑張れるよう、保護費を戻してください。



みんなの声

9月6日に大地震がおきました。
午前2時頃に、片山さんが来てくれて、
「みんな、だいじょうぶ？」と言ってくれました。

ていでんの時も、ダリアとグループホームの食事を作ってくれました。あの時のおにぎりのことは忘れないです。

(斎藤 麻実)

ヒザに氷がたまるようになり、以前から課題となっていたダイエットに、一大決心して挑戦することにしました。間食を止めることと、山盛りにしていたご飯の量を、半分自にすることにしました。

その結果、約8キロ減量する事ができました。おかげで、ヒザの調子も良くなりました。

(五十嵐 満)

なかなかイライラする気持ちを追い払えません。病院もマジメに行っているのだけど・・・。イライラしたら前はゲームをしていたけど、夜眠れなくなって、先生からゲームは2時間だけと言われました。

ゲームはやり始めるとやめられなくなるので、今はイライラしてもゲームはしないで頑張ってみます。

(達崎 竜一)

グループホーム若根荘の新築工事が始まり、引越しに向けて準備をしています。新しい建物や部屋がとても楽しみです。

今までは、若根荘の分家にいたけど、新しい建物では本家の人と一緒に7人での生活になるので、どんな風になるのか？不安と楽しみの思っています。

(中澤 昭子)

HAPPYの作業を頑張っています。着物をほどいて、トートバックの生地を作っています。HAPPYに入ってからずっとこの作業です。難しい作業は不安だけど、この作業なら自分でもやっていけるので安心して作業をしています。

(H.K)

初めて僕が阿部幸一さんに出会ったのは、マゼルに入居した時です。その日の夕食の時、僕の後ろを指さして「ペーパー!!」と言うので、みるとティッシュがありました。生意気だった僕は「自分でとって下さい」と言って口論になったものでした(笑)。亡くなる少し前、幸ちゃんに「木崎君、お茶するべ」と誘われ六花亭へ行き、どら焼き2つも平らげていました(笑)。一番古い仲間との別れに、まだ不思議な気持ちです。安らかに眠り下さい。(木崎 直生)

4コマまんが

～チヒロとサト～



By はは

<編集後記>

☎1995年1月17日。大学生だった私は、兵庫県西宮市で阪神淡路大震災に遭いました。すぐさま救援活動を始めた先輩を見習い、自分もボランティア活動に参加。疲れるどころか一生懸命でした。今回2度目の被災。規模は以前より明らかに小さいのに、日常を取り戻すまで気持ちがしんどかった。家族や仕事、責任を持つものが増えたのだと気づきました。あれから23年。ちょっとは大人になったのかなあ。(藤原)

☎朝夕めっきり冷え込むようになりました。皆さん体調はいかがですか?9月に発生した大型台風、翌日の大地震の被害に遭われた方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか?謹んでお見舞い申し上げます。今回「北海道胆振東部地震 その時、支援する会は」「みんなの声」にも地震の記事が寄せられています。一たび震災が起こると一変する日常生活。自身も今回の経験を今後に生かしていきたいものです。(米村)

《寄付金・寄贈品》

当会の活動に対し、ご支援いただき
厚くお礼を申し上げます。

(順不同・敬称略)

2018.6.21～2018.9.30

フジモトアキラ整骨院、藤本青果店、日建インテリア、(有)京屋電機、田代幸雄、土沼芳枝、高坂瑞世、近藤勝則、武田光輝、大西直子、樋口ひとみ、内田民江、遠藤義一、佐藤、渡辺正興、高橋、多田美奈子、中澤昭子、三嶋、三浦、湯浅、浜林、山田琢也、川島義和、アマノ、木崎直生、小西やえ子、後藤純一、春木由春、佐々木、浜林、工藤禮子、兼子、吉沢、岩崎修一、佐々木、西井美貴子



～ご協力をお願い～

『書き損じハガキ、ありませんか?』

支援する会では“書き損じハガキ”を集めています。頂いたハガキは、支援する会の財政活動に使わせて頂きます。

ご協力宜しくお願い致します。



HSK ころから

昭和48年1月13日第三種郵便物承認

発行 2018年10月10日(毎月10日発行)

HSK通巻番号559号